

1 事業名

平成28年度 文部科学省委託事業 日独学生青年リーダー交流事業（地方受け入れプログラム）

2 趣旨（事業の目的）

日本とドイツの青少年団体等でリーダーやボランティアとして活動する学生・青年が、文化体験、意見交換、機関や団体で体験活動等を行うことにより、青年リーダーとしての資質を高めるとともに、日独の相互理解と交流の発展を図ることを目的とする。

3 期日

平成28年8月31日（水）～9月5日（月）

4 参加者

- ・社会人を含む18歳～26歳のドイツ人学生青年リーダー16名
- ・ドイツ団長1名
- ・岩手山青少年交流の家法人ボランティア17名

5 連携・協力

滝沢市 滝沢市立柳沢小中学校 盛岡大学さんさ踊り実行委員会
公益財団法人岩手県国際交流協会 ホストファミリー16家族

6 内容

（1）日程

	6:30	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00		
8月31日(水)	ドイツ団バス移動											岩手山青少年交流の家到着		キリエーション	歓迎会	夕食	入浴	ドイツ団ミーティング	宿泊 (岩手山)
9月1日(木)	起床	朝のつどい	朝食	意見交換会①			昼食	意見交換会②		共同体験活動				スポーツ交流	入浴	宿泊 (岩手山)			
9月2日(金)	起床	朝のつどい	朝食	準備・移動	柳沢小学校訪問 授業参観 交流会 給食体験			移動	ドイツ団ミーティング	ホストファミリー 対面式		ホームステイプログラム							
9月3日(土)	ホームステイプログラム																		
9月4日(日)	ホームステイプログラム								ホストファミリー 歓迎会	ドイツ団ミーティング	夕食	入浴	ドイツ団ミーティング	宿泊 (岩手山)					
9月5日(月)	起床	朝のつどい	朝食	学習成果発表会			昼食	お別れ会	岩手山青少年交流の家 出発										

（2）指導者

国立岩手山青少年交流の家 副主任企画指導専門職 中田 春輝
国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 中村 聡
国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 佐々木 翔也
国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 鈴木 孔明

（3）企画のポイント

本事業では、岩手山の法人ボランティアの活動紹介や岩手県の学校教育における課題の発表をとおして、お互いのボランティア活動や学校教育における課題について理解を深め合うための意見交換会を企画した。意見交換や子供たちと交流する計画を話し合う時間を確保した。学校で子供たちと交流する際に、岩手県の学校で見られる課題や柳沢小学校の課題を考慮した内容を計画した。昼食を挟んで意見交換会を十分に行い、交流が深まってから、岩手山青少年交流の家の法人ボランティアが小学生のキャンプで実際に行っている活動を一緒に体験した。ドイツ人参加者が「子供の体験活動の機会を提供するための支援」について理解を深められるようにした。また、岩手山法人ボランティアがドイツ団参加者とともに活動することで、日独の青年が互いに違った立場で、文化の理解や交流の発展について考えを

深める機会とすることをねらった。さらに、「ホームステイ」や「盛岡さんさ踊り」の体験等をとおして、一層の日本の文化理解と交流を図った。

(4) 広報のポイント

ホームステイプログラムに向けて、ホストファミリーの募集を行った。公益財団法人岩手県国際交流協会に協力をいただき、国際交流協会と岩手山青少年交流の家のホームページで広報をした。また、盛岡市・滝沢市の高等学校にチラシを配布した。また、事業全体の広報として、岩手県内の各テレビ局やラジオ局、新聞社に取材を依頼した。事業期間中、新聞社1社と滝沢市広報による取材があった。

(5) 運営のポイント

日独の青年と一緒に意見交換や体験活動ができるように日程を考えて運営にあたった。より良い意見交換や交流ができるようにグループを3つに分けて活動するようにした。さらに、滝沢市立柳沢小学校へ実際に訪問し、交流授業を行った。子供たちと交流する授業内容を企画し、低・中・高学団の3つの教室で交流授業を行った。また、滝沢市の市長・教育長を柳沢小学校に招いて一緒に給食をとった後、ドイツ団との懇談会を開催した。日本の市町村や小中学校の教育現場が抱える問題点について質問や意見の交換が活発に行われた。ボランティア同士の交流や子供たちとの交流をとおして、「子供の体験活動の機会を提供するための支援」について理解を深められるようにした。

7 成果とその普及

日独のボランティア同士の交流や共同体験活動によって、お互いのボランティア活動の様子について理解を深めることができた。ドイツ人参加者からは、「時間が少し短かったけれども、我々は休み時間などにも話をし、各々の経験を共有した。我々は相互に新しい事柄を学ぶことが出来たし、それはとても喜ばしいことだと思った。」「野外炊事は、ドイツ団と法人ボラの交流のために最適なプログラムだったと思う。」「意見交換の時に議論できなかったことが、共同活動の際に議論できた。」といった感想が聞かれた。また、小学校へ実際に訪問して交流をしたことも、日本の学校の様子について理解する機会となった。「日本の小学校への良い洞察を得た。良い授業の方法を見ることが出来た。自分たちで計画を立てられたのもよかった。」「小学校の訪問は素晴らしい経験になった。授業時間はすごく興味深く楽しかった。小学生たちのダンスはとても素晴らしかった。」「日本の学校について知ることが出来た。学校長との質疑や対話は良い機会になった。色々な授業の形式について知ることが出来た。

(音楽と地理)」といったドイツ人参加者からの感想が寄せられた。

ホームステイプログラムも好評価であった。「ホストファミリーとの交流は信じられないくらい素晴らしい経験になった。家族は私を心から迎え入れてくれたし、とてもよく配慮してくれた。家族が立ててくれた計画はすごく多様で、色々な経験が出来た。もっと長く滞在したかった。」「実りの多い、素晴らしい経験ができた。日本のプライベートな日常生活について知ることができた。」という意見もあった。言語の壁により、意思疎通が難しかったと感じる家族もあったが、ホームステイプログラムはドイツ団参加者・ホストファミリー双方とも100%の満足度であり、ドイツ人参加者のために頑張るホストファミリーの気持ちは十分ドイツ人側に伝わっていた。ドイツ人参加者は皆、「楽しかった。」「とても親切な家族だった。」「最高の週末だった。」という感想を述べていた。

柳沢小学校訪問での児童との交流で新聞社1社の取材があった。また、滝沢市のホームページや広報で事業の紹介があった。企画の概要・報告書等は、ホームページへの掲載や館内への写真掲示による紹介をとおして、幅広く普及活動を行うこととする。

8 今後の課題

期間の中で交流をとおして文化理解や交流発展を図るには、プログラムの精選と焦点化が必要である。今回は、意見交換の時間を確保しつつ体験活動を重視した内容で運営した。それでも、日独お互いのボランティアについて理解し合うための時間は短かったようである。「残念なことに、ディスカッションの時間が少ししかなかった。興味深いテーマ。」「とても楽しめた。交流の時間がもっと多くあれば

よかった。」といった声が聞かれた。自己紹介シートを活用してテーマを絞り深くディスカッションできるように内容や時間について工夫する必要がある。

柳沢小学校訪問での市との懇談会でも「素晴らしい経験だった。市長や学校の先生との対話の時間が短かった。」「残念ながら時間が短かった。校長や、子供たちともっと多くの時間を過ごしたかった。」

「オフィシャルな人々との時間が少なかった。」といった意見が聞かれた。ドイツ団は市長・教育長との懇談の機会を楽しみにしていたようであったので、児童との交流時間を確保しつつ懇談もできるような会の運営の工夫が必要であった。



ボランティアの意見交換



柳沢小学校での交流



ホストファミリー歓送会